

第5回中国四国地区アーカイブズウィーク
アーカイブズ展示



長州藩
幕末維新
資料

幕末維新期の古写真

今回のアーカイブズ展示「長州藩幕末維新資料」では、幕末維新期に撮影された古写真を展示しています。

特に、3点のガラス温板(「野村靖写真」「井筒屋栄助ほか写真」「健武隊士写真」)は、貴重な遺品で、その鮮明な画像には、目を見張るものがあります。

※会期中、一部展示替えを行います。



8 野村靖写真

ガラス温板 1枚 10.3×7.8 日野家文書130

野村靖(1842~1909)は萩出身。父は長州藩中間入江嘉伝次。のち、野村家を継いだ。通称は和作、のち靖と改めた。入江九一は実兄。松下村塾に入門し、尊攘運動に奔走。維新後は、岩倉使節団の一員として欧米を視察。神奈川県令、駐仏公使、枢密顧問官、内務大臣、逓信大臣など要職を歴任した。



9 健武隊士写真

ガラス温板 桐箱入 1枚 10.26×7.6 日野家文書131

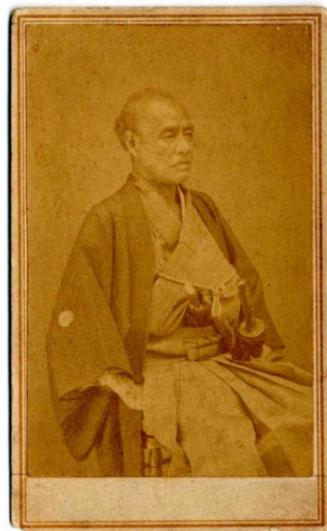
健武隊は、長州諸隊のひとつ。明治元年(1868)12月、膺懲隊と第二奇兵隊が合併して編制された。納箱の蓋裏に「日野宗春、赤川頼助、吉田寅二、山田鶴三、飯田武部、外一人不知、右健武隊中ノ人」と記されている。左奥の人物が長州藩医日野宗春(1827~1909)。赤川頼助(敬三)は膺懲隊総督、健武隊副督。



10 井筒屋栄助ほか写真

ガラス温板 桐箱入 1枚 9.5×12 日野家文書132

納箱の蓋裏書きによると、写真向かって後列右から大庭、熊野、高橋、富田杏(播州人)、前列右から高嶋屋作二郎、井筒屋栄助。京都誓願寺内北門日登見で撮影。



6 青木研蔵写真

1枚 8.7×5.5 日野家文書128

青木研蔵(1815~1870)は、大島郡和田村(現周防大島町)出身。父は医師青木玄棟、兄は医師青木周弼。

長崎でシーボルトに師事し、さらに日田の広瀬淡窓に儒学、江戸で蘭方医宇田川玄真、伊東玄朴に医学を学んだ。長崎から痘苗を持ち帰り、藩内で初めて種痘を実施した。藩の医学校である好生堂教諭を務め、明治2年(1869)大典医となった。



11 周布政之助写真

1枚 26.9×20.9 吉富家文書154

周布政之助(1823~1864)は、長州藩大組士。のちに麻田公輔と改名。村田清風の薫陶を受けて藩政改革に取り組み、航海遠略策による開国策、そして尊王攘夷への藩論確定など、激動の時局に対応した。写真は、文久3年(1863)、京都で撮影したものとみられている(『周布政之助伝』上・下巻)。



12 岩倉使節団写真

明治4年12月 印刷 1枚 20.5×27 毛利家文庫81写真史料97

岩倉使節団は、明治4年(1871)11月~同6年(1873)9月、不平等条約改正の交渉と、欧米各国の制度・文化などの調査を目的として、欧米に派遣された。一行は、岩倉具視を特命全權大使とし、随行や留学生など総勢約100名に及んだ。条約改正の具体的な成果は得られなかったが、欧米の先進文化を視察したことは大きな収穫であった。

写真左から、木戸孝允(副使、参議)、山口尚芳(副使、外務少輔)、岩倉具視、伊藤博文(副使、工部大輔)、大久保利通(副使、大蔵卿)。明治4年(1872)12月、サンフランシスコで撮影。